





三秋之部目録

三秋の分は△印あり前より俳の季小理物

時令

此部は時侯小かりたること出せ
④のさくら下より七月又八月も用之

△秋風

秋

△秋兩

秋

△秋霞

秋

△秋雲

秋

△秋虹

秋

△白露

秋

△袖のつる

秋

△霧

秋

△まきのまづく

秋

△下道

秋

△川きり

秋

△立人

秋

△秋日

秋

△月

秋

△ふた月

秋

△桂

秋

△月さやう

秋

△都

秋

△月の霜

秋

△心

秋

△月の氷

秋

△胸

秋

△不見月

秋

△新月

秋

△三日月

秋

△弦月

秋

△上弦

秋

△下弦

秋

△不知夜月

秋

△立待月

秋



△居待月 十六夜月 秋十五
△伏待月 十六夜月 秋十五

△更待月 十六夜月 秋十五
△廿三夜月 十六夜月 秋十五

△有明月 十中 秋十五
△待月 十中 秋十五

△残月 十中 秋十五
△照月次 十中 秋十五

△星月夜 十中 秋十五
△身入 十中 秋十五

△秋の聲 十中 秋十五
△秋野 十中 秋十五

△秋山 十中 秋十五
△秋水 十中 秋十五

△秋夕 十中 秋十五
△秋夜 十中 秋十五

混雜 此部より日令時令草木をとり出し
小なりし品と出す

△龍田姫 十中 秋十五
△秋宮 十中 秋十五

△律の調 十中 秋十五
△千秋樂 十中 秋十五

△鶉衣 十中 秋十五
△田の庵 十中 秋十五

△小田守 十中 秋十五
△密山子 十中 秋十五
△鹿驚 十中 秋十五
△添水 十中 秋十五

△鳥籠 十中 秋十五
△漆水 十中 秋十五
△碓氷 十中 秋十五
△鳴子 十中 秋十五
△引枝 十中 秋十五
△半草 十中 秋十五
△燒草 十中 秋十五
△秋夕 十中 秋十五

草木 此部より三秋ふりしもの
草木をとり出す

△枉 十中 秋十五
△秋萩 十中 秋十五

△薄 十中 秋十五
△一尺薄 十中 秋十五

△糸薄 十中 秋十五
△葛葉 十中 秋十五

△忍草 十中 秋十五
△蔦 十中 秋十五

△芭蕉 十中 秋十五
△景天草 十中 秋十五

△草花 十中 秋十五
△鶏頭花 十中 秋十五

△雁来紅 十中 秋十五
△白茅 十中 秋十五

△萱刈 十中 秋十五
△角觶草 十中 秋十五

△大子草 十中 秋十五
△秋殿 十中 秋十五

△花壇 十中 秋十五
△鬼灯 十中 秋十五

△新番椒 十中 秋十五
△若烟草 十中 秋十五

△布瓜 十中 秋十五
△薑 十中 秋十五

△牛房引 十中 秋十五
△芋 十中 秋十五

△頭の芋 秋 △薯蕷 秋

△零餘子 秋 △耳諸 秋

△泉 秋 △柳 秋 ○柳の種類

△梨子 秋 △水 秋 △吉色 秋 △木 秋 △山梨 秋

△秋田 秋 △田の色 秋 △稲 秋 △富草の花 秋

△落穂 秋 △稲 秋 △稲 秋

△稲 秋 △稲 秋 △喬杆 秋

△稲 秋 △新米 秋 △青米 秋

△綿取 秋 △桃吹 秋

△鹿 秋 △鹿 秋 △鹿 秋 △鹿 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

△鴉 秋 △鴉 秋 △鴉 秋

三秋目録終

○五節々祝譯

一五節々として祝ふ事ハツギ也

陽月をいへりその陽の生

成の道にして陰の肅殺の

謂より陽の教ハ一三五七九

の奇数より陰の教ハ二四六

八十の偶数あり故小陽と扶
 け陰と柳ふる術小陽月陽日
 小食とる物とる陽物を食
 て陽と旺小陽を扶く先春
 餅草餅粽索餅栗等の物
 と供御ふ献るこしなり故小
 節供くつ江家次第小委く
 見えより正月の七日とりて
 節供の初老守清少納言
 の枕草子にも粥の節供泰
 りつるも此事ありとせ
 ず正五九月と三長月と
 定らるる仁明帝の御宇
 承和三年の詔とや

秋之部

三秋のちとるつるもの
 秋の部は時候よりなる
 時を以て秋の部とす

時令

秋の風はさびしくつる
 秋の風はさびしくつる
 秋の風はさびしくつる

秋風

秋の風はさびしくつる
 秋の風はさびしくつる
 秋の風はさびしくつる

秋後拾遺

秋の部は時候よりなる
 秋の部は時候よりなる
 秋の部は時候よりなる

拾遺愚

秋の部は時候よりなる
 秋の部は時候よりなる
 秋の部は時候よりなる

秋後撰

秋の部は時候よりなる
 秋の部は時候よりなる
 秋の部は時候よりなる

詞

秋の部は時候よりなる
 秋の部は時候よりなる
 秋の部は時候よりなる

秋の部は時候よりなる
 秋の部は時候よりなる
 秋の部は時候よりなる

狂 亦、毎とともや下ぞりの村雨ハ
さかも穂回もへそけしとある常興菴

詩 五字對句 同上

晴山踈雨後 白雲當嶺雨

心タル山ニサツト雨ヲ多クシテ
レウツエニダシクシテモ
秋樹斷雲中 黄葉遠階風

アキノトニエホカエバノ
クモノ中ニニエル
キハニタ木ノハガチツテ庭
ノフニタシテ上ノ風ガフク

詩 七字對句 詩

九曲暮雲連雁宕 秋風飛

キキキヲボサニツラリガシトウニ
イシクエモ立コメタ日クレノ雲ガ
雁宕山ト云フ山ニツツク
アキカセカ
タカクフク

行帆秋雨落錢塘 帶雨秋

ヒトツホカケ舟ガ秋雨ノフル日
錢塘江ト云フ江ニツツク
アキニツフチ
秋ケヒキカ深ヒ

秋霞 朝海東のうらみ好く
とにしくやけと湯瓦

のさうんちうらうらつていそ日和はし
朝天雲のやけと秋のやけと

つふ二三日のうらら雨なる。秋
やけ西あうてゆきまればつきて

日初うら霞のや春 秋虹朝の
の十六丁めよ委し

西又見也三日の内は雨ふる。昔の
虹の姿にありて晴天より来る

秋霞 朝海東のうらみ好く
とにしくやけと湯瓦

秋雲 秋のうらみ霞のや春
の十六丁めよ委し

秋のうらみ霞のや春
の十六丁めよ委し

秋のうらみ霞のや春
の十六丁めよ委し

秋のうらみ霞のや春
の十六丁めよ委し

秋のうらみ霞のや春
の十六丁めよ委し

秋のうらみ霞のや春
の十六丁めよ委し

秋のうらみ霞のや春
の十六丁めよ委し

秋のうらみ霞のや春
の十六丁めよ委し

秋のうらみ霞のや春
の十六丁めよ委し

秋のうらみ霞のや春
の十六丁めよ委し

秋のうらみ霞のや春
の十六丁めよ委し

菱のこ神のうへまふさげをま
 露のまはまねえそくそ神の
 露ハ神をたをるも神のまあ
 ちとまもつゆあれたるのそと
 ろりしそりあつたるといふ
 ち海よりらゆらばたり
 〇海濱も海鳥のこりうらあ
 ぶらうらうらとたり玉露玉
 潤もまたまのおとれか
 又見とてつかり

秋建仁教令

寂蓮

晴雨つゆゆ日乃つろり神を
 ら風こじきあくのゆら

千五百番秋令

通具

志ぐれはらけとれ村雲やも
 入りうらぐられそりは

真應百首

清茅露

為家

ぢけはらけとれそり海ら
 とどまのつくは白のま玉

夫木

名石露

僧正妙意

霞燃おのわ何れ小萩あつれ

後拾遺

朝霞

範永

こいまつるおあはれ秋ぬま
 移りやうぬるまは花より

千首

芭蕉

為尹

秋はとまをる萩の糸まより
 一りくまくる秋のまは

家集

嘉秋後玉

信輔

野田原をけるものまあつん
 何れはまきゆりあつた

詞

後玉。玉く。紫き。まき。ま。

月中らるる。萩。ま。ま。ま。

の下。菊。の。下。深。ま。

の玉。小。豆。の。花。ま。ま。

く。ど。ま。ま。ま。ま。

知魚 こまきし 魚 いさな 魚 いさな

萩 あし 萩 あし 萩 あし

女 メ 女 メ 女 メ

清 きよ 清 きよ 清 きよ

右 ミ 右 ミ 右 ミ

尾 お 尾 お 尾 お

悪 あく 悪 あく 悪 あく

狂 くる 狂 くる 狂 くる

連 れん 連 れん 連 れん

露七字對句 詩礎

直望明河臨象闕 露未乾

誰零露捧金盤 雨露清

光泛月華明徹曙 玉露秋

氣晴天宇暗生寒 白露偏

桂香多露裏 夕陽飄白露

石響細泉迴 樹影拂青苔

露露故事 陰陽氣勝

雨トナリ露トナル陰氣勝

凝テ雪トナリ霜ト成ルナリ

陰陽氣勝

陽氣勝

トキハ散

トキハ散

トキハ散

トキハ散

金莖

漢武帝承露盤トテ罍

章宮ニテ一夜天ノ甘露ヲ兼テ玉屑ニ和シテ飲タリトアリ

霧

△ミツリノ海△ミツリノ香△霧

△ミツリノ中△川ミツリ△ミツリノ雨

△ミツリノ人△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ地△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

△ミツリノ霧△ミツリノ霧△霧也

の浦 朝日山。入相のうき香芳立る。

きりきり。秋の族入。日教日教。秋のうき。

り。日教。秋のうき。秋のうき。秋のうき。

あぢい。月。日。月。風。まをれ。秋。風。うき。

うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。

尾。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。

芳。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。

の。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。

の。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。

の。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

和六

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

連露や月の桂の花やうら 昌叱
解 露の月の桂の花やうら 許六

婦娥 羿ト云フ人 不老不死ノク
スリヲ西王母ニ請ヒ得タ
ルニ罪カ妻ノ婦娥又ス三服シテ

月ノ中ニ奔リノホリタリト云フ
故事ナリ 事支類聚ニ出ヨツ

テ月ノ異名ヲ常娥ト云ヘリ
月都 死世傳ニ日月天の常娥

由旬あり 凡面乃垣藩ハ七室トシ
此のよりと云云ニ月のもこの
改メ乃 出テナリ

秋 夫本 為家
月付るる光の輝 今月ぬまは
心の蓮うり月ぞととあは

秋 ころりき月の都の女郎花 貞室
月もふあふとささぐぬ都々々 巳綾

月鼠 譬喻經ニ日虎ニ逐レタル
入野中ノ井戸ニ落入ニト

シテ草ニトリツキタルニ黒キ鼠ト白
キ鼠ト有テカノ草ノ根ヲ齧カノ黒

キ鼠ハ月之白キ鼠ハ日之コレ月日ノ
早クタツタトヘテリ月ノ鼠ト云事

此經論ヨリ起レリ
秋 我ハのひまけ根とて心鼠ぞと
るハ月のもささぐぬま 俊成

秋 月の影をかりて蓋は親亦惟然
月の霜 月の地を照ガキ
△ 何ぞりそをいハ

秋 秋といふはけりささぐぬま
月ささぐぬ霜と見えたり 富伴

秋 ちりしるそと月の手教本枝
狂 ちりしるそと月の手教本枝

月乃ひんかまつあつたを相 令波
詩 李白 牀前看月光 ユカノニ有
疑是地上霜 フリニサニニ地ニシ

疑是地上霜 フリニサニニ地ニシ
摩羅天ニカトウタガフ

擧頭望山月 山ノハノ月ジヤ
低頭思故郷 サレウツムイテハ故郷

低頭思故郷 サレウツムイテハ故郷
ノコトコ オモヒ出ス

ノコトコ オモヒ出ス

ノコトコ オモヒ出ス

ノコトコ オモヒ出ス

ノコトコ オモヒ出ス

月の雪 月の光白く雪も似たりと云ふ

月の霜 月乃霜と云ふは物と云ふなり

月此氷 月乃ひかり氷なり

真如月 如月の雲母なるて

心月 心月の月と云ふは

胎月 胎月の月と云ふは

不見月 月を隠すなり

狂 狂の月と云ふは

詩 七字對句

四野霧凝空寂寞

九宵雲鎖絶光輝

月乃詩教連佩

月乃詩教連佩

月乃詩教連佩

月乃詩教連佩

月乃詩教連佩

秋ノ金糸 皇后宮配後
月を足るかりふそろけまきさるる
ゆゑもあはれあへくさるる
千載 実家

秋ノ秋のこほとほくはらふそ
かのうらふえ申のゆふ月よふ
續後撰 知家

さかひれいさよふ秋もあまき
月うしじのわけやそつらん
續古今 雨家

足れき小秋風さし 天の糸
やうふ月秋ぞあけふあ
續拾遺 衣笠

かきぎのさきさきも白まん
ころ霜いそぐ秋の月うあ
玉糸 西村

人も足ぬうかたふれとまきまも
ともしらん月のうげとこそぞ
續千載 後成

あづのてもまきぬ月の秋ぞと
ふりたがふは乃露のうらとを

新古 田家見月 弟工以吉

月づつふと田の彦辰あふ月や
かうとよむとぶ水をえらん

月清 池上見月 後兼格
進よとぶ老うをよとけひたり

本此中々きふは乃月うあ

月づつふと田の彦辰あふ月や

かうとよむとぶ水をえらん

月清 池上見月 後兼格
進よとぶ老うをよとけひたり

本此中々きふは乃月うあ

月づつふと田の彦辰あふ月や

かうとよむとぶ水をえらん

月清 池上見月 後兼格
進よとぶ老うをよとけひたり

① 運 宿まぐ世にがれ出る月の末頃
 ふうそくい月い足し世の初らさ末頃
 月やふみ新さくはの秋乃水末頃
 卷ふ足く月のうちなる理ふる嘆盛
 ② 佛 さらがひは見えたる水の水 玉来
 撥つらもふびゆり花乃月 芭蕉
 月のをりとも持ふるあふらん 未定
 かしとさく龍出まあつ月夜る 龍守
 ③ 狂 にはしをにわつらうははつれど
 けつらこののらんざん乃月 貞本
 ざんざやも墨つさやのあふべしそ
 何んト入らる月乃夜まらる信海

詩月詞

東坡

一 更山吐月 月が出ル
 玉鏡卧微瀾 玉ノカバミガサバナニ
 正似西湖上湧金門外看
 テウド西湖ノ上ノユキンモノトコロノ
 アタリテ見タヤウナケレキビヤ

月詞

李白

小時不識月 月ヲ白タノタ
 呼為白王盤 月ヲ白タノタ
 又疑瑤臺鏡飛上青雲端
 マタ玉ノウテナノカニガ青雲ノアタリヘ
 トヒアガツタノカトヲモフタ

待月五字對句

同上

玉軫鳴風久 自是登樓早
 タミコトチカタエズ 今カラハ月ヲミヤウトテ
 九世ニナル ニカヘ上ルカハヤイ
 金輪出霧遲 非于出海遲
 コカ子ロカ霧ヲモ 月ノ海カラ出ヤウ
 出ルカヲソイ カラソイユテハナイ

新月

蛾眉 活法 抱朴子
 王筠 盧全詩集 一書 古詩

新月の月をいふ 櫻徳 詩
 新月 沈鈞 細く絶る新月
 かのさやまの月とふふぬる天
 か清のづく三又夜中新月のま

と燈は三又夜とて名月のみ
多論之より新月の満月とて又

胎も風天をて方夜たり
新月織々抹黛眉この三日月乃

三月月 胎也異名 哉星
和名 若月 多系出

○月三月よりて魄とて月とつり

○名の月大なるは二月月明らう

あめる名月小なるは三月月明らう
なみ哉とて始とて三系出

歌 本の風り 返根より三日月の
うげりしるゝ文がの死 支家

夫也 ぬるし人のま色福はよそへ
まろくぞをき三日月のうげ 知家

俳 月をにハ推が捨てて三日月交考
及参のまのやとや三日月交圃

三月月日月まみ北水日月 芭蕉
影のまのくもは月三日月連二

狂 物道の市免いしくとく月きや
眉まぶしく三日の月うけ貞佐

弦月 △のり月△くくり月
△弦月△二弦△下弦

異名 彼鏡 古宗府 輪貝 在詩 暈缺
淮南子 如新文 選恒月 詩經 園 いた

月日月。上弦とつり毎月七八日と
なり下弦とつり廿三日以て 兼名

強くは月の帆子の夜は月月の帆
弓と張るるは左より張月と字

歌 月を張る張ともつたは心の路
うりく入るありあり 順

狂 夜とあまかま月月のくくハ
竹の如くく人よこそあれ 三素

弓月 詩歌は弓月には委は
委八月 十八日の夕月也連俳

委八月十八日の夕月也連俳
委八月十八日の夕月也連俳

八月十五日の石の記と

不知夜月 既早 哉早 曉。二
秋。輪滅。先虧。

朝缺。十六夜月也とて委は
十六日月とて委は秋の十六日とて

秋ノ十三

秋 新六帖

ぬち

秋風を穿り新雲をいて中つで
きんわをささるいとよひの月

詞 きののたけはさうりまういさよひ

さういさよひ月。山をたけいさよひのち

柳 藤原のや月のいさよひ藤原の山 秋風

三待月

△二十日秋月。今宵月

善二須臾の回をまらぬまら

結との入給なるふらう秋の入之

連儼八月とも又三秋ともさる

秋より八月十七日の秋とさる也

秋 新六帖

夜笠内府

秋月とささるひく寝る秋のこ

とぞさすら八月もさるらん

柳 善信や按 八月秋月 山川

居待月

△十八夜月 待 待 待

物さるに居てまらぬの良なり

柳 秋書の坂下秋待のまら月 春波

狂 雷のさる小町さるていさづら

のまら秋月のまらせらる 貞徳

伏待月

△寝待月ともいさづら

おもしろいさづらおそ

るんばうて秋のさる連儼は

秋は限まら秋の夏もよあり

秋 拾玉 装束

巻園

稲妻のくげらあしぬ其の夜の

寝待の月のたりあけのそら

柳 伏待と伏見あるあつむ 野水

更待月

△廿日更中ともいさ

廿日の月まの刻もあつれなり

柳 藤原のさる秋の月とさる也

秋のさるは廿日の月とのさる也

秋 青のさるはひくをさるふら

二十日秋月のさるはひくをさる

柳 名もさるは廿日の月秋をさる外宗秋

二十三夜乃月

△廿三夜守月

柳 秋のさるは廿三日の月秋をさる外宗秋

暮蔭の縁白うれが月けのちと
待て信の誓至がまのしつして拜
むをり正九月三ヶ月の月を月待
とひく秋の月と拜せり

有明月 十五夜以後の月之月
空なる夜のゆくはん地

秋の月のつとをくもる割をり
あつとさうらうのり方ーとさ

まふ
心の隅と新れことそよほなして
恋よりゆりありあけの月 寂蓮

連 有明の月やはかたけふは思
ぬのうやちの月土石のま正秀

狂 人の世はひまの 詠とらひなガ
物そひ月けもありあけの月信海

待月 詩書にもよに奉るま
歌ふれも秋の月とさ

あは儂の三秋なり

儂 待月や移りもまれば後無き考
秋 山ろと世まよとれんひくりさ
つれをく見えて月そまきさ 仙洞

残月 月のせはく夜又明抄る
をらり十七八夜の後より

秋 ままれつるゆふの夜よひぬい
松のやたる山の隅の月 西夕

のころ秋もやとる夜月うけふ
とそまれゆり月そらごれ政る

儂 秋りまきふまきりのころ月 彌入
残月や移りもまれば後無き 荷兮

狂 月新いへるる恋りありあけの
かへししのそよのこまわり 貞徳

照月次 三日月の月より九月以後の月
明月の光と無夜月をら

秋 あれ西よてり月をことかそよまが
こよひぞ秋のそよ中流りたり ほ成

次をばとらひるして水の西と
ひし出りぬるなり

星月夜 星のまかりれくやれて
月夜の中はくちを

星月夜とらへ又後山は星月夜
をよめ合はるるまらり星月夜

の年とらふ年戸の何るあともいふ
夕影篇藤倉志二をえり

秋 堀川百首

常陸

我いよりかまふらなれんゆけが
か一月秋こそうまきりけり

身入

秋風か人のあうらにまき
こむかしくゆかありのん

秋

通志

園のやうのうもまうぬきん風の
あままむかぐれ秋のまふり

運 多まむやうう夜秋の風 紀巴

非 多いむやうう夜秋の鳥鳴水

秋の聲

うんもたぐ物あふれて
さひく清きあふり

郭 郭の幽奥うそ秋の声 梅水

引くても何やうも秋の夢 湖雪

詩 古文秋聲賦 歐陽永叔

方夜讀書聞有聲自西南來

者 永叔が夜書言フニテ井タルニトコトモナシニ
コエカアリテ西南ヨリ來タル

悚然而聽之曰 テ云フコトニハ

異哉初折瀝以蕭颯 コトビヤ

ハジメハサラクトシテ
モノサビレク

忽奔騰而泅泅 水ノナカルヲトガス

如波濤夜驚風雨驟至 下略

ナニカ夜中ニタツテタルヤタニモアリ雨風ガ
ニハカニヨコテタルヤウニモキコエ

秋 秋のけーきとん

秋の野こ咲き花ともなげり
うきかそくは七くこのころ

秋 秋のけーきとん

詞 建乃あき。らるるのころ。

松乃ま。秋。そくうへ。うら

むま。ひ。あうや。うだ

ら。麻。秋。花。さく。花を

も。秋。花。さく。花を

づーと。懸く。落る。人。古。郷。船。旁。霧。の。白。む。か。白。霧。ち。の。の。り。り。り。

⑤ 連。は。い。と。ふ。ま。を。何。世。の。り。り。り。巴。

⑥ 狂。う。道。女。の。中。せ。う。た。の。杖。の。せ。う。ら。や。五。け。た。ら。く。ま。く。り。や。れ。本。才。

秋山 あきのやま 杖の白くして、明らう

秋 あき 秋の夕にちのきげんまひぬる
秋 あき 秋の夕にちのきげんまひぬる

詞 ことば 雲のう。月。は。の。ほ。ろ。指。さ。び。き。蘇。う。く。入。や。と。れ。ま。の。夕。日。紅。葉。右。外。林。の。せ。う。と。ん。抵。押。ま。し。

俳 はい 修。然。者。の。杖。け。う。り。や。杖。山。如。象。

詩 うた 秋山五字對句

望 のぞ 中。疑。在。野。山 やま 形。圖 かた 澤。國 たに

幽 こもり 處 ところ 欲 ほ 生 な 雲 くも 秋 あき 色 いろ 露 つゆ 人 ひと 家 か

幽 こもり 處 ところ 欲 ほ 生 な 雲 くも 秋 あき 色 いろ 露 つゆ 人 ひと 家 か

秋水 あきのみづ 清。く。湛。け。り。て。と。ど。ま。し。く。冷。ま。い。ろ。み。ぎ。り。を。り

秋 あき ち。風。も。さ。り。の。水。も。清。く。ま。い。山。川。も。り。や。秋。も。ら。い。ん。時。房。

俳 はい 秋 あき 夜 よ とい とい ま。き。り。り。秋。水。霽。白。

詩 うた 滕王閣記

落 お 霞 は 與 と 孤 こ 鷺 ろ 齊 し 飛 と

一 ひと 色 いろ 水 みづ 共 とも 長 なが 天 あま

秋水 あきのみづ 時 とき 至 いたる

故事 ことば 莊子秋水編 百 ひゃく 川 せん 河 が

西 さい 侯 こう 渚 そ 崖 が 側 が 聞 きこ ニ に ソ ソ キ キ 牛 ウシ 馬 ウマ 弁 べん

秋 あき 夕 ゆふ 杖 たい の の 日 ひ け け 夕 ゆふ の の 杖 たい を を 云 を

秋 あき 夕 ゆふ 杖 たい の の 日 ひ け け 夕 ゆふ の の 杖 たい を を 云 を

秋 あき 夕 ゆふ 杖 たい の の 日 ひ け け 夕 ゆふ の の 杖 たい を を 云 を

混雑

け那まは日令時令本
なびたうまふるあま出

龍田姫

四都乃西より龍
田より鶴屋より竜

田美くもい秋のま成そめ出
造化の体そ名はけくつり

秋 我ゆくの七日とれたず龍田美
ゆみけをるを風くちりくも

⑤ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

秋宮

皇居宮の御りなり
皇居宮の宮いふなり

⑥ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑦ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑧ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

律の調

物又律呂の調まこと
二月まかつ附いまむ

⑨ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

子秋樂

これ盤渉調の曲
かろ。盤渉調の

⑩ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑪ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑫ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑬ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑭ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑮ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑯ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑰ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑱ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑲ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

⑳ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

㉑ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

㉒ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

㉓ ちよくけつがふりり美赤い
くつと龍田のひびきみりうか真室

田の庵

田は稲の實のいり多し
附録 臺のきぬ道

疾い藤 藤のうららき
とて田のこころは飯菴と傳り
て田舎守らるる之天智天皇は
かの藤とよませたまふる
てはこそ飯菴の庵といふ
たり

小田守

これ田とちり此民を
いふ橋と猪鹿の換

りぬみ小畜をとりきりて

小田守の水海より大橋が桃栗

案山子

案山子 案山子
源の源の源

田はあふる多し
傳都の昔を實傳都といふ人
橋を守りて多し
いしうらぬよりを傳都といふ
りて
都といふは傳都のソホツなり

曹高騰

神代巻は曹高騰
活水の多

又去賓傳都るもの多し
古歌よく解せざる者の伝はる
しそかつしそつかまらかひ
うそなるが今の傳はるも去賓
伝はるるはしるる伝はるの歌は
歌はるるはしるる伝はるの歌は
押のたのたを今かかたき
山田守を今かかたき

去賓

去賓が橋を守りてその歌
るるはるるもあやまらなり

傳

傳はるるはしるる伝はるの歌は
伝はるるはしるる伝はるの歌は

狂

狂を押ししるる伝はるの歌は
いいてるるはしるる伝はるの歌は

漆水

今世の民の制はるるの
漆水の多し

板

板はるるはしるる伝はるの歌は
板はるるはしるる伝はるの歌は

板

板はるるはしるる伝はるの歌は
板はるるはしるる伝はるの歌は

板

板はるるはしるる伝はるの歌は
板はるるはしるる伝はるの歌は

板

板はるるはしるる伝はるの歌は
板はるるはしるる伝はるの歌は

板

板はるるはしるる伝はるの歌は
板はるるはしるる伝はるの歌は

板

板はるるはしるる伝はるの歌は
板はるるはしるる伝はるの歌は

碓 格障のてくまの香さ小
あさひ板のともちうにま
けたる抽之登夜者まえに

鳴子 柳林の夜は添み碓抽さるし如泉
繩と後し鳴まを付引て
多板 板を人重ひて繩を引
これを麻ひてこらふ

秋 秋の何れも秋の何れも秋の何れも
ひく人もあき世のころころん

鳴竿 竹の繩とまきくさる付
て引ららしおれんやう

秋 秋の何れも秋の何れも秋の何れも
ひく人もあき世のころころん

鳴竿 竹の繩とまきくさる付
て引ららしおれんやう

秋 秋の何れも秋の何れも秋の何れも
ひく人もあき世のころころん

鳴竿 竹の繩とまきくさる付
て引ららしおれんやう

秋 秋の何れも秋の何れも秋の何れも
ひく人もあき世のころころん

鳴竿 竹の繩とまきくさる付
て引ららしおれんやう

秋 秋の何れも秋の何れも秋の何れも
ひく人もあき世のころころん

鳴竿 竹の繩とまきくさる付
て引ららしおれんやう

秋 秋の何れも秋の何れも秋の何れも
ひく人もあき世のころころん

鳴竿 竹の繩とまきくさる付
て引ららしおれんやう

秋 秋の何れも秋の何れも秋の何れも
ひく人もあき世のころころん

鳴竿 竹の繩とまきくさる付
て引ららしおれんやう

秋 秋の何れも秋の何れも秋の何れも
ひく人もあき世のころころん

鳴竿 竹の繩とまきくさる付
て引ららしおれんやう

秋 秋の何れも秋の何れも秋の何れも
ひく人もあき世のころころん

鳴竿 竹の繩とまきくさる付
て引ららしおれんやう

秋 秋の何れも秋の何れも秋の何れも
ひく人もあき世のころころん

鳴竿 竹の繩とまきくさる付
て引ららしおれんやう

秋 廿八 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

まきまきのうらうらほはきくたれ

秋 廿九 候ふれり何き漸じ外山より

傳 新書を履のうら花は建武官白
咲き けさるいぬ死のうらさる家牧

俳 花を杖よりぬにぬありく 屋二
月けくゆけを花をぬのうら 家

狂 花の海にぬれぬをさきせせとは
なておとしくわいさるうらり 由英

詩 草花詞

幽閑不附 睡蘭芳 コノ草花ハカ
ニカニサニイ

自向江濱 カノニ咲テ蘭ナトノ
カノニサニイ

道傍 ワガテニ江ノホトリナドニハ
タナドラスミドコロニレテ居ル

晴日暖開粧麗景 セイビツアタカヒニケイ
タナドラスミドコロニレテ居ル

吟郷 花ノニホヒテ詩ツツルヤウチ
ニオホヒカケルヤウニカホラセテ詩テモ

香蒙詞客入 カウカモ
ツクルニハニサセルデアラフ

鷄頭花 異名 洗手巾。一及雲。
紫冠。花の形勢のこと

雁素紅 紅うらさる紫をとうらぬ
るりのを雁素紅と云ふ

花とをまなまきさうり下鳴めいさう
合伴素多しして好まあり美練

お高り縵縵をさる月夜の十松綴
と云ねれは 兼安くハ捕遣と倫比

狂 花をさる月夜の十松綴
と云ねれは 兼安くハ捕遣と倫比

詩 翔雁南來塞草秋 葉ケイト
ウラ素来

紅ト云カ南ノ國カラトトワ先 イダヒモラウラ
コロハ返國ノアキノコロシヤ

未霜紅 イダヒモラウラ
コロハ返國ノアキノコロシヤ

已先愁 イダヒモラウラ
コロハ返國ノアキノコロシヤ

綠珠宴罷歸金 リヨク珠ト云ラ
美人ガ酒宴

七尺珊瑚 シチシクサン
サンゴ

夜不收 タカサノ七尺モアル珊瑚
珠ガ夜モカクテ有ヤ

白々 ハクハク

角觥

世の夢をよめまふり合
小思のたれむとらん

相撲まゝのし根をゆり割
よめまふり合

御夢のよめまふり合
よめまふり合

犬子

又尾州と云ふ名あり
樹を折るの意のよめまふり合

御夢のよめまふり合
よめまふり合

秋

秋のよめまふり合
よめまふり合

狂

狂のよめまふり合
よめまふり合

萩殿

△萩の戸を中法深殿の
山の方へ萩を極らうと云ふ

後系極

後系極

狂

狂のよめまふり合
よめまふり合

連

連のよめまふり合
よめまふり合

狂

狂のよめまふり合
よめまふり合

サ化壇

△表圖。夢のよめまふり合
よめまふり合

詩朗詠集

前載

多見

多見のよめまふり合
よめまふり合

家僮

家僮のよめまふり合
よめまふり合

鬼

鬼のよめまふり合
よめまふり合

カ、チと訓、ワノに八月よとるを
り、き秋実とむとん

佛 鬼灯と名、こ、枝、う、む、五、酒、堂
鬼灯や医者感して、その心の腫、立、志

狂 竹、つ、ま、い、つ、ろ、何、ん、き、ま、究、あ、け、て
わ、く、き、と、き、ん、ら、う、わ、く、幼、平

新 番 椒
番、番、國、を、ま、い、と、國、の
あ、け、地、元、南、寧、う、り、き

佛 石、其、ま、と、つ、い、根、を、唐、う、じ、中、波
鏡、り、れ、杖、や、三、け、り、ま、り、蓮、二

新 番 椒、汁、目、又、え、藤、の、怒、ま、湖、十
ま、り、た、む、こ

若 烟 草
佛 烟、州、異、名、相、思、花
清、涼、痰、還、魂、茶、葉

布 瓜
佛 瓜、名、糸、丸、編、羅、紡、線
○蔓、州、を、り、六、七、月、を、美

佛 瓜、り、く、と、長、う、る、の、糸、丸、紡、由、之
狂 世、の、中、よ、ら、う、と、方、の、心、の、人、も

狂 世、の、中、よ、ら、う、と、方、の、心、の、人、も
う、ん、の、へ、ら、ま、れ、の、の、う、ま、り、佛、片

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
い、い、も、ぬ、る、べ、一、生、寒、を、ま、る

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
ま、う、ま、い、と、根、り、う、り、と、而、踏、川

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
狂 世、の、中、よ、ら、う、と、方、の、心、の、人、も

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
ま、う、ま、い、と、根、り、う、り、と、而、踏、川

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
狂 世、の、中、よ、ら、う、と、方、の、心、の、人、も

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
ま、う、ま、い、と、根、り、う、り、と、而、踏、川

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
狂 世、の、中、よ、ら、う、と、方、の、心、の、人、も

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
ま、う、ま、い、と、根、り、う、り、と、而、踏、川

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
狂 世、の、中、よ、ら、う、と、方、の、心、の、人、も

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
ま、う、ま、い、と、根、り、う、り、と、而、踏、川

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
狂 世、の、中、よ、ら、う、と、方、の、心、の、人、も

佛 片、の、冷、ろ、ん、糸、丸、の、水、を、つ、く
ま、う、ま、い、と、根、り、う、り、と、而、踏、川

のりの天下にまゝに芋の根を大に
て九三竹斗の拍あり茎と合ふま
又いよいよ又いよいよ

狂秋葉は毎夜らんてうく露も
かゝりも似ていりせたりなり 自見

草石種 異名 山薯 根除 徳皇

△五石ん下やうを野ふまふふと
山薯ともいふ。里に載るもの

△つづねいも又うま芋とも云也
別名佛堂の芋者とも芋の形をひ

ふげさうとんたんをいふの園を
い麻芋ともいふ芋根柿のこ

長芋は山薯なり 密家の根ら
月よりいふ其からにし。昔者花

時、風水術候ふりんとて疑ふ
るふ古代より傳へるふもさうり

佛根をいふは根根や山のいも葉二
能生やのし相馬の内表は甚

零餘子 薯蓣の葉をせとれ

食用とんたり

甘藷 え縁のともをアウキウ

芋 より薩摩芋とさる

果 このこ 栗の果、柿の果、桃の果、これと

△△△の 不果ともいふ又、栗の果と菓
と云は外、本果ましく秋は女のつたう

秋 彩動 秋

この月となくんていれたのもー

謙 いふまゝにけりよそのそひら

はるるくもなすくも免やハ

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

秋 彩動 秋

①柿 柿をよむかきく 穢度なる考
柿の本やこく 自候の親仁が 葉

詩 七字對句

詩 礎

垂枝 星實 粟々 熟 千顆 蜜

タレサガリタル枝ニ星ノヤツ実

カスノミ

帶葉霜皮顆顆乾 一林霜

葉ツイタ柿ニ粉ノフイタ皮カ

柿の種敷 ①御所柿和及御所

村より出るも乃 室上とくまらぬ

ち和柿と云 和州とて 平柿と云

御所柿也 祇に區又信教其本

①似柿 似柿又似く 味かきり

狂心ろく 似柿は 似柿 思兼と

麩母ろく 似柿は 柿なり 道春

①遺 徹柿 味こよく くとて 肉

と 規 通るが ぶくく べう 号く

①茶柿 形たまの ところ 子リ

ハ小形と云く 海をり

歌 著用集

春見法師

霜掛ゆるくわう 柿をのぼり

ふくやまき 重なり 又を ありきり

①茶柿 かうら 小みして 長く 飯

茶乃て 又方まよ けり 山

ちとよ柿 もの けり

①御 茶柿 やあじの 霜 美まれ 昌房

衣の外ハ 里柿。 於 棗柿。 田倉

柿。 久保柿。 赤社柿。 若隠 子

多程 類多し 一團の 氷去り

て 味も 似し けり けり けり

①酎 柿 渋柿を 石皮 又 浸し 又

浸して 先出せば 味甘く 變るなり

①御 酒 渋柿を 酒に 漬く 其角

包柿 柿の 実を 剥き 又 細

めて 餅に 自然に 和熟す

①御 柿 渋柿を 煮たり 其角

①御 柿 乾か ぬら 其角 其角

①御 柿 柿を 煮たり 其角

①御 柿 柿を 煮たり 其角

①御 柿 柿を 煮たり 其角

①御 柿 柿を 煮たり 其角

①御 柿 柿を 煮たり 其角

柿餅 渋柿と搾りし果の粉を
和し蒸く解く味

食用の蓋あり

餅柿 柿の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨子 名異 青梨果。千流雪。
玄圃実。百菓宗。

快果。菓宗。玉乳。蜜又。

種類 水多し。山梨。多し。

△本梨 △近江梨。松尾梨。空
前梨 △生浦梨。大梨。津野梨

回返不より出た大なるものなり
を又五六寸あり大梨の如き近江

梨 芝浦梨 多きより出空閑な
し。肥老より出る

梨六帖 長生庵書

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

梨 梨の皮を剥き、果肉を絞る。或は蜜を塗り、干す。

① 秋 松園は楸と同す。其の正香
楸に出で同じな楸の程ひる。其葉を

楸舟 ① 秋 川はあつたこの月さうり
いさつはあつたこの月さうり

楸川 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸德 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸子 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸延 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸杆 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸板 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

楸 ① 秋 山里の秋をさるる楸川ことさるる
秋の楸のさるる世さるる楸川

右の稲こき出たり。寒傭業
多し。如し。秋俗号て寒傭業と云ふ

新米 △古く米△新米。八月
の季に上りたる書あり

稲の熟するに速く刈取三秋と云ふ
○**新米** 新米は速く刈取三秋と云ふ

綿糸 △本綿糸。綿の糸なり
○**綿糸** 二種あり。樹綿の

本より大きく花赤く甚だるなり
○**綿糸** 本より大きく花赤く甚だるなり

○**綿糸** 本より大きく花赤く甚だるなり
○**綿糸** 本より大きく花赤く甚だるなり

桃吹 綿の葉は小き桃の葉
○**桃吹** 綿の葉は小き桃の葉

秋生類 此の類は三秋
○**秋生類** 此の類は三秋

麻 △麻 △麻 △麻 △麻 △麻
○**麻** △麻 △麻 △麻 △麻 △麻

和の △和名 △和名 △和名 △和名
○**和の** △和名 △和名 △和名 △和名

異名 △異名 △異名 △異名 △異名
○**異名** △異名 △異名 △異名 △異名

名 △名 △名 △名 △名 △名
○**名** △名 △名 △名 △名 △名

牡麻 △牡麻 △牡麻 △牡麻 △牡麻
○**牡麻** △牡麻 △牡麻 △牡麻 △牡麻

秋 △秋 △秋 △秋 △秋 △秋
○**秋** △秋 △秋 △秋 △秋 △秋

秋 △秋 △秋 △秋 △秋 △秋
○**秋** △秋 △秋 △秋 △秋 △秋

秋 △秋 △秋 △秋 △秋 △秋
○**秋** △秋 △秋 △秋 △秋 △秋

秋 △秋 △秋 △秋 △秋 △秋
○**秋** △秋 △秋 △秋 △秋 △秋

秋 △秋 △秋 △秋 △秋 △秋
○**秋** △秋 △秋 △秋 △秋 △秋

秋 △秋 △秋 △秋 △秋 △秋
○**秋** △秋 △秋 △秋 △秋 △秋

秋 △秋 △秋 △秋 △秋 △秋
○**秋** △秋 △秋 △秋 △秋 △秋

秋 △秋 △秋 △秋 △秋 △秋
○**秋** △秋 △秋 △秋 △秋 △秋

秋 △秋 △秋 △秋 △秋 △秋
○**秋** △秋 △秋 △秋 △秋 △秋

秋山の雲は夜をくまるとせり
その阿ままききうもく暗くそ

ふふうとさうらうせんのけらうきよ
きりさげさうらうわをぞあうけ

真備

紅葉名長名

のららるる山は山のくまきよ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

のららるる山は山のくまきよ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

詞 藤の智のまくれき。藤はく

のららるる山は山のくまきよ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

ゆがつさうらうもひらうゆくゆ
ゆがつさうらうもひらうゆくゆ

無笛を谷の厨くまきく疾武越川
湯ゆが下した 鮎あゆのまはけ谷の藤切
狂きやうみづがたをまきけふくまうれが
海うみがカケたを秋の真まの白雨
藤笛の初はつよりく 後のち地ちも
中ちゆうのうづの巻まれをあり々々は波なみ凌しのぎ

詩 鹿と字對句

詩 礎

作對御花歸遠洞

何濯々

成群擒草過山林

更吻々

又ヒトムレニナツテ草ヲヒイテ山

又ユウクトモ

車 故 廬 二女紫額襦

搜神記 准陳氏

田ニ豆ヲ種ユ忽テニ女ヲ見ル容
貌甚美也紫ノ額染ノ襦ニ青キ
裾ヲツク天雨フレドモ衣濕ナシ陳氏
アヤシニテ壁ニ鏡ヲ掛タリケレバ鏡
中ニ二鹿ヲウツセリ是ニオヒテ刀ヲ
以テコレヲ研ル

鷓 本草伯勞はくろうのくひけをう
阿あアアリリ秋あきのううりて怒

食くふ容よう形けいもささ鷹たか不ふ似にたり△而
秋あきのううりて怒
秋あきのううりて怒
秋あきのううりて怒

鷓 早 鷓 鷓乃草莖。鷓が魁

鷓せうのまはけをうりて怒
鷓せうのまはけをうりて怒
鷓せうのまはけをうりて怒
鷓せうのまはけをうりて怒

鷓せうのまはけをうりて怒
鷓せうのまはけをうりて怒
鷓せうのまはけをうりて怒
鷓せうのまはけをうりて怒

秋 恆根は徳の子又たててあり
まを乃田長まをのびよつ 後れ

秋の我は徳乃又はじいりなりん
あつたむとふまくと乃凡花先

秋 二葉や徳は徳入後まを 三惟

鷓 目を徳徳。徳と捕る
を徳をよりとつり

けも乃目をぬいてまを不あり
く徳をかこじしめて徳友と徳

てまをなり
補田 竹の回乃まをを冷る
唐土は四附ありて

秋を補とま補の教なり秋の教
まをまをまを乃まあり

秋 秋の羽徳。百羽徳。まは
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

まをまをまをまをまあり
まをまをまをまをまあり

任 びより 楚料理の身より
何ふて見たり 他つてさう 九利

鱸膾 スギナス 周註曰 吳人階
煬帝ニ獻ス 帝曰

金華ノ玉膾東
南ノ佳味ナリト

秋風起 アキカゼオユ 晋書曰 振聲字ハ李
賀吳ノ人ナリ 洛ニテ

大司馬東曹ノ掾トシテ 秋風ノ起
ヲ見テ 忽我故郷湖中ノ蓴菰

ノ羹 鱸魚ノ膾ヲ思ヒ出シテ曰 公
唯コロサシニ適スルコソ 貴メ何ソ

此數千里ニアリテ身ノ名 歸ヲ
要セシヤト又ニヤカニ 宦ヲ棄テ

吳中ニ 餓レリコソ 意
ヲ和歌ニヨシテ

秋風ノ起 鮑ノまます 心ひ出
ゆ 心乃心ちこを忘れ 後れ

鮑 イセ 名 異 吹波。鮑魚。海鮑。
阿浪矣。阿浪矣。阿浪矣。

魚。川東海らうれたるあり
く水聲は 激つて

鮑 八月の 鮑魚は 大きく
なるを 訪て 泊る海に

る川は 又も 夕おびに 只
日の出を ようと して 夜中より

舟と 出た 舟は け 舟は 舟中
浪は 川に なる 舟は

鮑 鮑魚は 水村山廓 酒樽 瓦 出雲
の 舟に 舟は 舟は 舟は

狂 狂の 狂の 狂の 狂の
舟は 舟は 舟は 舟は

江 江の 江の 江の 江の
舟は 舟は 舟は 舟は

秋 秋の 秋の 秋の 秋の
舟は 舟は 舟は 舟は

鮑 鮑の 鮑の 鮑の 鮑の
舟は 舟は 舟は 舟は

鮑 鮑の 鮑の 鮑の 鮑の
舟は 舟は 舟は 舟は

鮑 鮑の 鮑の 鮑の 鮑の
舟は 舟は 舟は 舟は

毛を采る脯とほして其の皮を蒸らし
とふされども紙中此物と云ふは

鱒ニギハヤヒ 鱒ニギハヤヒ 鱒ニギハヤヒ 鱒ニギハヤヒ
鱒ニギハヤヒ 鱒ニギハヤヒ 鱒ニギハヤヒ 鱒ニギハヤヒ

不しの海濱とてけしき小いとし
のどろくも押ひけし

鮫ニギハヤヒ 鮫ニギハヤヒ 鮫ニギハヤヒ 鮫ニギハヤヒ
鮫ニギハヤヒ 鮫ニギハヤヒ 鮫ニギハヤヒ 鮫ニギハヤヒ

山いくつ古目鏡よこし雲来示
ん其まをひかりぬり鏡も馬成

狂々だれの秋をさうめていそいそ
いぬりぬり老たぬれもた下

ゆきほして飯つぶさせて耳の根ぬる
やまほして飯つぶさせて耳の根ぬる

縹ニギハヤヒ 縹ニギハヤヒ 縹ニギハヤヒ 縹ニギハヤヒ
縹ニギハヤヒ 縹ニギハヤヒ 縹ニギハヤヒ 縹ニギハヤヒ

中をさうらうて長もろさかり
ゆきほして飯つぶさせて耳の根ぬる

秋のふれまきう海舟付
水勢又引きて居る縹と

三巻

俳諧作意早傳受 全一冊

俳諧作意早傳受の妙備とみまぐ
集め且いびと多く記し俳句の終向

面白とて教くのとよまも新表録ホ
名人の句と加へて守り外前句の心

俳諧古今の名句と集め多く
集め且いびと多く記し俳句の終向

面白とて教くのとよまも新表録ホ
名人の句と加へて守り外前句の心

俳諧古今の名句と集め多く
集め且いびと多く記し俳句の終向

面白とて教くのとよまも新表録ホ
名人の句と加へて守り外前句の心

俳諧古今の名句と集め多く
集め且いびと多く記し俳句の終向

面白とて教くのとよまも新表録ホ
名人の句と加へて守り外前句の心

文化三丙頁歳發行

浪花書舗

